

1. 活動のテーマ

<テーマ>

動き 0歳児～5歳児
～音楽に伴う身体表現活動とパラバルーン等を用いた協働的運動遊びにより、リズム感・身体調整力・社会性の統合的発達を図る～

<テーマの設定理由>

新しい音楽にふれると集中して聴き、想像を膨らませて楽しそうに動く。
保育者と関わり合いながら音を聴き、リズムに合わせて体を動かすことを楽しむ。
幼児クラスにもなるとダンスだけではなく、製作物や道具を用いて身体を動かしてバランス感覚やリズム感覚を養いながら活動に参加をしている。
乳児クラスでは、保育者の動きをまねたり、一緒に身体を動かしたりすることで、安心感を持ちながら音と動きを楽しむ姿が見られた。
幼児クラスでは、ダンスだけでなく、製作物や道具を用いた活動を取り入れることで、身体の使い方を工夫しながら表現する姿が増え、バランス感覚やリズム感覚を養いながら主体的に活動へ参加することをねらいとした。日常の保育の中で、音楽が流れると自然と身体を揺らしたり、リズムに反応したりする子どもたちの姿が多く見られたことから、音楽と動きを結びつけた活動をより充実させたいと考え、本テーマを設定した。
また、年齢や発達に応じて関わり方や表現の仕方が異なるため、音楽を共通のきっかけとして、子ども一人ひとりが自分なりの「動き」を見つけ、楽しめる活動を目指した。

2. 活動スケジュール

1. 音楽にふれる

朝の受け入れ時や自由遊びの時間に音楽を流し、日常的に音楽に親しめる環境を整えた。子どもたちは、自然に音に耳を傾けたり、口ずさんだりしながら、リラックスして過ごす姿が見られた。

2. 音楽を活動に入れて遊ぶ

主活動や行事（運動会など）を通して、計画書やクラス別月案を基に音楽を取り入れた活動を展開した。年齢や発達に応じて、リトミック、ダンス、道具を使った動きなどを取り入れ、無理なく楽しめる内容とした。

主活動や運動会などの機会を通して計画書とクラス別月案等を基に活動を展開

3. 活動のふりかえり

リーダー会議や職員会議を通して、活動の様子や子どもたちの姿を共有し、良かった点や今後につなげたい点について振り返りを行った。

主に8月から12月の猛暑期間、運動会、発表会時期に活動を展開。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

環境・素材の設定

ラジカセ

パラバルーン

ラジカセを活用することで、その場の子どもたちの様子に合わせてすぐに音楽を選び、流すことができた。これにより、活動への導入がスムーズになり、子どもたちの興味・関心を逃さずに活動へつなげることができた。

活動を重ねる中で、子どもたちは次第に自分の好きな音楽や動きを見つけ、リトミックやダンスに積極的に参加する姿が増えていった。

乳児クラスでは、保育者との関わりを楽しみながら、音楽に合わせて身体を大きく動かし、笑顔で遊ぶ姿が多く見られた。

幼児クラスでは、パラバルーンを使った活動が特に好評で、音楽に合わせて友だちと動きを合わせたり、力加減を工夫したりしながら取り組む姿が見られた。この活動は運動会にも発展し、子どもたちの意欲や達成感につながった。

また、「今日は何流すの?」「〇〇を踊りたい」といった声が子どもたちから自然に挙がり、音楽を通して主体的に活動へ関わろうとする姿が育っていることを感じた。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

音楽を使った活動の幅が大きく広がり、保育内容がより充実したものになった。Bluetooth機能付きのラジカセを導入したことで、様々なジャンルの音楽を気軽に取り入れることができ、子どもたちの反応を見ながら柔軟に活動を展開できた点が良かった。運動会では、これまで以上に子どもたちが自信を持って身体を動かす姿が見られ、日々の音楽活動の積み重ねが表れていると感じた。

子どもたちの「やってみたい」「もっと動きたい」という好奇心や探究心が、音楽をきっかけに引き出され、成長につながっていることを改めて実感した。